

2021 年度 研究班 研究成果報告書

研究名	沖縄における会計・簿記教育に関する研究																																						
代表者名	朱 愷雯																																						
分野／対象地域	財務会計／九州・沖縄地域																																						
研究期間	開始 2019 年 4 月 ～ 終了 2022 年 3 月 （ 3 年目／ 3 年間）																																						
研究成果要約	本研究は、沖縄における大学の会計簿記教育の現状を調査し、コロナによる会計教育の変化について検討することを目的としている。このような研究目的を照らして、今年度は、簿記会計科目を設置する沖縄 4 大学（沖縄大学、沖縄国際大学、琉球大学、名桜大学）における遠隔授業への対応の実態を、インタビュー調査を通じて明らかにした。																																						
研究組織	（研究代表者及び研究分担者）所員 2 名、 特別研究員 2 名、 計 4 名																																						
研究成果 3,000 字程度 （別紙添付可）	本研究は、簿記会計科目を設置する沖縄 4 大学（沖縄大学、沖縄国際大学、琉球大学、名桜大学）における遠隔授業への対応の実態を、インタビュー調査を通じて明らかにすることを目的としている。インタビュー調査は、沖縄 4 大学の計 6 名の簿記会計科目担当者を対象に、対面またはオンライン（ZOOM）により実施された。調査は、遠隔授業の実施方法とそのメリット・デメリットおよび遠隔授業の実施による簿記会計教育の変化を中心に、質問を行った。 ① 遠隔授業の実施方法と実施効果 表 1 は、各回答者が遠隔授業を実施する際の実施方法に基づいて作成したものである。遠隔授業の実施方法については、オンデマンド型またはオンデマンド併用型が半数以上を占めている。オンデマンド型を選択する理由の 1 つとして、学生側の視聴環境への配慮が考えられる。 表 1 遠隔授業の実施方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>授業形式</th><th>教材・資料</th><th>ツール</th><th>課題と試験の有無・実施方法</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 先生</td><td>オンデマンド型</td><td>文書 (A4 紙、4～5 枚)</td><td>学務システム</td><td>両方あり。 受験可能期間：1 週間程度</td></tr> <tr> <td>B 先生</td><td>オンデマンド型</td><td>NHK 基礎講座</td><td>学務システム</td><td>両方あり。 試験実施方法：対面</td></tr> <tr> <td>C 先生</td><td>オンデマンド型</td><td>テキストの補足資料</td><td>学務システム</td><td>両方あり。 受験可能期間：通常より短縮</td></tr> <tr> <td>D 先生</td><td>オンデマンド型</td><td>レジュメ、パワーポイント</td><td>学務システム</td><td>両方あり。 試験実施方法：エクセルファイルで出題。 受験可能期間：1 週間程度</td></tr> <tr> <td>E 先生</td><td>前期：同時双方向型とオンデマンド型の併用 後期：ハイフレックス型とオンデマンド型の併用</td><td>パワーポイント、動画</td><td>ZOOM YouTube WebClass</td><td>両方あり。 試験実施方法：数パターンの問題を作成し無作為にメールを通じて配付。 受験可能期間：3 時間</td></tr> <tr> <td>F 先生</td><td>ハイフレックス型</td><td>パワーポイント、一部は YouTube</td><td>Microsoft Teams</td><td>課題なし，テストあり。 試験実施方法：時間内に学内 SNS に問題をアップ。</td></tr> </tbody> </table>					授業形式	教材・資料	ツール	課題と試験の有無・実施方法	A 先生	オンデマンド型	文書 (A4 紙、4～5 枚)	学務システム	両方あり。 受験可能期間：1 週間程度	B 先生	オンデマンド型	NHK 基礎講座	学務システム	両方あり。 試験実施方法：対面	C 先生	オンデマンド型	テキストの補足資料	学務システム	両方あり。 受験可能期間：通常より短縮	D 先生	オンデマンド型	レジュメ、パワーポイント	学務システム	両方あり。 試験実施方法：エクセルファイルで出題。 受験可能期間：1 週間程度	E 先生	前期：同時双方向型とオンデマンド型の併用 後期：ハイフレックス型とオンデマンド型の併用	パワーポイント、動画	ZOOM YouTube WebClass	両方あり。 試験実施方法：数パターンの問題を作成し無作為にメールを通じて配付。 受験可能期間：3 時間	F 先生	ハイフレックス型	パワーポイント、一部は YouTube	Microsoft Teams	課題なし，テストあり。 試験実施方法：時間内に学内 SNS に問題をアップ。
	授業形式	教材・資料	ツール	課題と試験の有無・実施方法																																			
A 先生	オンデマンド型	文書 (A4 紙、4～5 枚)	学務システム	両方あり。 受験可能期間：1 週間程度																																			
B 先生	オンデマンド型	NHK 基礎講座	学務システム	両方あり。 試験実施方法：対面																																			
C 先生	オンデマンド型	テキストの補足資料	学務システム	両方あり。 受験可能期間：通常より短縮																																			
D 先生	オンデマンド型	レジュメ、パワーポイント	学務システム	両方あり。 試験実施方法：エクセルファイルで出題。 受験可能期間：1 週間程度																																			
E 先生	前期：同時双方向型とオンデマンド型の併用 後期：ハイフレックス型とオンデマンド型の併用	パワーポイント、動画	ZOOM YouTube WebClass	両方あり。 試験実施方法：数パターンの問題を作成し無作為にメールを通じて配付。 受験可能期間：3 時間																																			
F 先生	ハイフレックス型	パワーポイント、一部は YouTube	Microsoft Teams	課題なし，テストあり。 試験実施方法：時間内に学内 SNS に問題をアップ。																																			

		の動画を活用。		受験可能期間：90 分（通常通り）
朱	オンデマンド型	レジュメ、動画	Moodle、Microsoft Stream	課題あり，テストなし。 試験実施方法：期末課題。 受験可能期間：1 週間程度

課題の有無や提出方法については、表 1 に示したように、遠隔授業を実施する際に、課題を課すケースが多くみられる。特に、オンデマンド授業を実施する場合に、課題の提出を出席とするパターンがほとんどである。一方、課題の提出方法は、オンラインのみならず、紙ベースでの提出も可能とされているケースが多い。これも、学生の視聴環境への配慮と考えられる。

他方、オンライン試験の実施方法については、ほとんどが学務システム等によって試験問題を学生に配信する形で実施された。学生の受験場所が自由であり、不正行為の防止が困難であるため、試験といっても事実上の課題と捉えて実施したことがわかった。また、通信状況や技術的なトラブルを考慮して、オンライン試験の受験可能時間や受験期間は通常の対面試験よりも長く設けられるケースが多かった。一方、テキストを見たり、友人と相談する時間が取れないようにするために、通常より試験時間を短縮したケースもあった。

遠隔授業の実施効果に関して、毎年に行われている授業評価アンケートの結果、およびクラス規模と遠隔授業の実施効果との関係という 2 つの側面から、質問を行った。表 7 は、各回答者から得られた回答を示したものである。2020 年度の授業評価アンケート調査の結果では、例年より評価が高い、または例年と変わらないという回答が多く得られた。個別のコメントとして、スライドに図を載せたこと、分かりにくい場合にはホワイトボードを活用したこと、わからない点を質問できたこと等がメリットとして挙げられていた。一方、講義の進捗度が早い、説明の時間をもっとかけてほしいなどの改善要望もあった。また、授業評価アンケートの結果ではないが、受講生の成績から見れば、成績上位者と下位者との差が前年度より広がったこともみられた。

クラス規模と遠隔授業の効果との関係について、多くの回答者から、「対面授業であれば、クラスが小さい方が学習効果は高いとはいえるが、遠隔授業の場合、クラス規模は学習効果に関係しない」という回答がえられた。

② 遠隔授業のメリットとデメリット

教員の立場からは、遠隔授業の 1 つのデメリットとして、学生の理解度を把握しにくいという問題が挙げられた。受講生の理解度を適時に把握し、講義の進行速度を随時調整することが遠隔授業を実施する際の大きな課題といえる。

また、簿記講義の特徴ともいえるが、「授業形式の多様化やネットの普及等に伴って、日商簿記を教科の主体とする場合、大学教員が作る動画より分かりやすい動画が YouTube にあり、学生は市販のテキストやネット上の動画を通じて学修できるため、簿記を担当する大学教員の存在意義が薄くなっている」という指摘もあった。

そして、教員側からみれば、遠隔授業を実施するにあたっては、講義の準備に時間がかかるというデメリットがあるが、遠隔授業のために作成した資料を今後の対面授業で活用したいと回答した担当者もいた。

一方、学生の立場からは、遠隔授業を実施する際の一番大きな問題点として、視聴環境の影響が指摘された。また、学生は講義の課題に追われ、心理的な負担が大きく

	なったことも指摘された。 なお、各回答者は、今後、遠隔授業を行う際の改善点についても提言した。まず、遠隔授業を実施する場合には、学生の視聴環境に格差があるため、その視聴環境の検証と平準化をする必要がある。配信側においても、音響や画質など設備面で授業間の格差があるため、改善する必要がある。また、学生の理解度の確認や日頃のモチベーションにつながらないため、Google Form 等の活用や確認のためのミニテストの実施も考えられる。 ③ 遠隔授業の実施による簿記会計教育の変化 まず、大学における簿記会計教育の目的について、各回答者から以下のような回答が得られた。共通点として、会計データを作成するスキル、そして、会計データを読む能力を身に付け、内部の経営管理の意思決定や外部の適切な情報開示に活用できることが大学における簿記会計教育の第 1 の目的であるとみられる。 また、「日商簿記検定試験のネット試験の開始に伴って、大学における簿記会計教育の方法や内容等について変化するか否か」という質問については、回答者から「ネット試験が開始になっても、大学における簿記会計教育の方法や内容が変化することはない」という意見があった一方で、「検定にとらわれない講義の構築が必要と考えるものの、就活を踏まえた社会での客観的な評価となるため、ネット試験の内容を考慮した講義になるだろう」という回答もあった。 2021 年度から、文部科学省の通知に応じて、多くの大学は新型コロナウイルス感染症の感染防止措置を徹底的に対策したうえで、積極的に対面授業を再開したが、急速の感染拡大により、遠隔授業に切り替える措置をとらなければならないところも少なくない。今後も、遠隔授業の実施はしばらく続くと思われる。このような背景のもとで、遠隔授業を実施する場合の課題として、オンライン試験の実施方法および不正行為の防止問題が考えられる。また、今後、遠隔授業を前提にした大学における簿記会計教育の意義を再考し、その方法や内容をどのように改善すべきかについても、検討する必要があることが明らかになった。 一方、今後、対面授業が実施できるようになったとしても、遠隔授業の経験をどのように生かして、そのメリットを対面授業に取り入れるのかについても、考える必要がある。
研究成果の 発表実績	〈学会報告〉 「沖縄 4 大学における遠隔授業への対応状況－簿記会計科目担当者に対するインタビュー調査を踏まえて」日本簿記学会第 37 回関西西部会・統一論題（近畿大学主催、ZOOM による開催）、2021 年 5 月。